

都城発、とれたての旬がずらり

市場の駅オープン

普段は入れない市場の中で買物ができる市場の駅が4月17日、市公設地方卸売市場内にオープンしました。解放するのは、水曜日、日曜日、祝日を除く午前10時から午後6時。市場のプロが選んだ上質で鮮度の高い水産物や青果、花きなどが市価より安く設定されているとあって、市民らが早速訪れ、新鮮な食材を買い求めていました。オープンに際し、前田副市長は「都城は日本でも有数の農業基地。昭和のレトロな施設を生かし、まちの雰囲気を感じられる駅にしてほしい」と期待を述べました。



闘志を燃やす 熱き戦い

都城ラグビーフェスタ

都城ラグビーフェスタが4月18日、母智丘公園多目的広場で開催されました。宮崎、鹿児島両県の小学校低学年からシニアまでの17チーム、約300人が参加。それぞれの年代に分かれて選手たちは試合を行い、応援に駆け付けた家族らの声援を背に激しくぶつかりあいながら、トライを目指していました。都城工業高校のキャプテン山下尚斗^{なほと}さん（3年）は「県高校総体では、県3強といわれている、高鍋、日向、延岡星雲を倒して優勝したい」と抱負を語っていました。



独立の夢に向かい4店舗出店

チャレンジショップオープン

将来自分の店を持ちたい人を応援するチャレンジショップに新たな店舗がオープンし4月24日、記念イベントが開催されました。今回開店したのは、携帯電話の装飾商品などを販売するデコショップ、ネイルアート、リンパマッサージ、中古レコード店の4店舗。1年間、販売や接客などの経験を積み、将来の独立を目指します。デコショップを開店した川野香織さん（小林市）は「デコる（装飾する）楽しみを多くの人に知ってもらい、将来の出店につなげたい」と意気込んでいました。



史跡めぐって健康づくり

島津の歴史をめぐるウォーキング

4月25日、島津の歴史をめぐるウォーキング大会が都城歴史資料館を発着する6^{キロ}のコースで開催され、市内外から参加したおよそ350人が、健康づくりと歴史散歩を楽しみました。市の健康づくりプログラムの一環として4年前から実施。今回は都城島津邸の開館を記念してNPO法人都城・歴史と文化の町づくり会議代表の田代義博さんによる歴史講座も併せて開催されました。丸田トシエさん（小松原町）は「勉強になりました。今後も積極的に参加したい」と話していました。





語りのプロが都城をPR

都城市特派大使委嘱式

全国へ都城をアピールしてもらう特派大使の委嘱式が4月28日、市役所で行われました。委嘱されたのは、講師として国内外で公演を行っている太平洋さん、旭堂小二三さん、旭堂南陽さん。3人は、おとしから鳥津を題材にした講演会を開催して昨年11月の鳥津発祥まつりでは、観客に都城鳥津家の歴史を盛り込んだ新作講演を身ぶり手ぶりを交えながら分かりやすく披露しました。太平洋さんは「都城を第二のふるさとして、全国に広めていきたい」と抱負を述べていました。



良質なお茶が高値で取り引き

新茶取引会

新茶取引会が4月30日、都城茶工業協同組合で行われました。本市を含めた5市1町の茶の生産者が「やぶきた」「あさのか」など29点、約2,500キロを出品。茶の販売業者は、茶葉の色を見たり、香りや味を確かめたりと入念に吟味していました。都城茶工業協同組合の下徳克仁さんは「今年は、霜害もなく香りが良い。おいしいお茶を多くの人に飲んでほしい」と笑顔を見せていました。また、平年より品質がよかったため1キロ当たり平均価格2,845円と高値で取り引きされました。



星に興味を持ってほしいな

たばな天文台親子天体観測

日本一星のきれいな街に7度選ばれた高崎町にあるたばな天文台で、ゴールデンウィークに合わせ親子で参加できる星の観察会が行われました。5月4日に行われた親子天体望遠鏡工作教室には市内外から25人が参加。出来上がった望遠鏡で早速、星を眺めたり、指導員から星について説明を受けたりしていました。普段から星を見るのが好きという池田博隆くん（清武小2年）は「土星が串団子みたいに見えておもしろかった。作った望遠鏡で星を見たい」と目を輝かせていました。



鳥津の若武者 参上!

子ども鎧(よろい)着用体験

こどもの日の5月5日、都城鳥津邸で子ども鎧着用体験が行われました。都城鎧づくり同好会（永山実男会長、15人）が段ボールなどを加工し鎧10領を製作。子どもたちは会員らにすね当てや胴、兜などを順に着せてもらい、家紋入りの陣幕を背景に記念写真に収まっていました。また、邸内の社殿まで歩いて回り薩摩藩に伝わる教えを朗読するなど、郷土の歴史を知る一日となりました。初めて体験した椎原逸人くん（5歳）は「鎧を着て強くなった気がする」と笑顔で話していました。





川 や湖などでモーターボートに引つ張られながら水面を板状の滑走具（ボード）で滑り、ジャンプや回転などを競うウエイクボード。この競技で中村光輝さん（安久町・38歳）が、県内初のプロ資格を取得しました。

小学5年の時から始めたサツカーを社会人になった現在も続けているスポーツ好きな中村さんとウエイクボードとの出会いは、30歳のころ、友人に誘われて体験したことがきっかけ。「なんでもチャレンジして、好きになる。好きになつたら楽しくてしょうがない」と話す中村さんは、2年ほどで大会に出場するようになり、東京や北海道などで年4回行なわれる日本ウエイクボード協会主催の大会で、総合順位がアマチュア5位に入り、今年からプロとして参戦する資格を得ました。

週末には、約20人の仲間たちと練習に励む中村さん。練習前には、必ず大会同様、大技が成功するようイメージトレーニングを自宅などで行っています。「風を切って水の上を走ると気持ちいい。難易度の高い技が成功すると最高。日常生活を忘れて、無心になる」とウエイクボードの魅力に引き込まれています。

2歳のころ、牛の餌を切る裁断機に右手を巻き込まれて指を失う重大事故に遭い、現在は身体に障がいを持っていますが「特に日常生活に不自由は感じないし、これは、私の特色」と話す中村さん。全国でプロ資格を持っている人は114人で、県内でも認知度が低いウエイクボード。JA都城職員の規程で副業が禁じられているため、賞金や講習料をもらうわけにはいかないが「初心者でもすぐにできるスポーツ。多くの人がウエイクボードの楽しさを知ってもらって競技人口を増やしたい」と一緒に滑る仲間を募集中です。

県内初のプロウエイクボーダー

なかむらみつてる
中村光輝さん



都城讃歌

【目指せ! プロゴルファー】

今堀 りつさん



今堀 りつ
(いまほり りつ)

◎プロフィール

本名/今堀つや 昭和24年生まれ。プロゴルファー
1985年東海クラシックを含む5勝を挙げる。
また、1982年から95年にかけて482試合連続出場を果たす。

18歳の時に単身、大阪のよみうりゴルフ場にキャディーとして就職。ゴルフの世界に飛び込み、プロゴルファーとして活動するきっかけとなりました。

私の幼少時代の思い出といえば、春は野草を摘みながら食したり、夏には小川で魚取りをし、秋になると稲を刈った田んぼでソフトボールをしたりして自然と戯れて過ごしたことです。

また、中学、高校時代はバレーボールに熱中していました。厳しい練習を休まず耐え抜いたお陰で、体力・精神面ともに鍛えられ、ゴルフ人生の貴重な糧となつている気がします。

なぜ、個人競技であるゴルフの道を選んだかという点、母の

教育の影響だと思っています。母は「人様に迷惑をかけることだけはするなよ」が口癖でした。すべて自己責任のもと、当時発足して間もなかったプロゴルファーという職業を選びました。13年かけて自分の職業に誇りを持ち、482試合連続出場することができたのも、へこたれない「都城魂」と多くの人のサポートがあったからこそだと感謝しております。帰省の際は、同級生たちと食事会をしたり、ゴルフ談議に花を咲かせたりして楽しんでいきます。最後に、素晴らしい自然と環境がある都城から、全国のファンに愛されるプロゴルファーが育ってくれることを心から願っております。

母

学校へ行こう

西中学校

都原町7707 ☎24-1128



◎学校のシンボル 「桜」

校庭の周りには、学校の花木にもなっている桜が何本もあり、春になると、毎年きれいな花を見せてくれます

笑顔あふれる西中

西中学校生徒会

西中学校は、創立24年目を迎えて、全校生徒475人が日々充実した学校生活を送っています。「時を守り、場を清め、礼を正す」を目標に掲げ、よりよい学校にするために頑張っています。

今、生徒会では、毎朝あいさつ運動に取り組んでいます。晴れの日も雨の日も正門や裏門の前などで、毎日欠かさずことなく続けていきます。あいさつ運動は、先輩たちから受け継いだので、新しい西中の伝統になるよう後輩にも伝えていきたいです。

また、毎日、校長先生からの宿題「チャンス・チャレンジ・チェンジ」があります。校長先生がその学年にあった問題を作り、チェックまでをしてくださいます。毎日欠かさず出した生徒には、1学期ごとに賞状が配られるので、みんな一生懸命に取り組んでいます。

西中では、ペットボトルのふたの回収も盛んに行っています。交流委員会を中心に、集めたペットボトルのふたをユニセフに寄付して、ワクチンを届ける活動に協力しています。これからも西中が笑顔いっぱい学校になるよう、頑張っていきたいと思います。